

中小企業設備投資動向調査 [2023年1月調査]

(対象は断りのない限りすべて国内設備投資)

調査要旨

1 設備投資「有」比率…22年度実績見込、23年度当初計画ともに前年同期比で増加

設備投資の2022年度実績見込（以下、「22実績見込」）では、実施（設備投資「有」）企業割合は全体の61.8%と実績見込として2005年以来の高水準。また、2023年度当初計画（以下、「23計画」）も、設備投資「有」が全体の40.5%と当初計画時点では2007年以来の高水準となった。

2 設備投資の目的…国内向け能増投資、情報化投資の上昇が継続

年度間での変化をみると、「増産・販売力増強（国内向け）」のほか、「情報化投資」も21年度実績から23計画にかけて比率を高めている。

3 設備投資額の増減率…実績見込として2013年度以来の高水準

全産業の設備投資額の増減率は22実績見込で前年同期比+13.4%となり、実績見込時点では2年連続プラスとなり、2013年度以来の高水準となった。

4 設備投資「無」の理由…「景気の先行き不透明」比率が低下

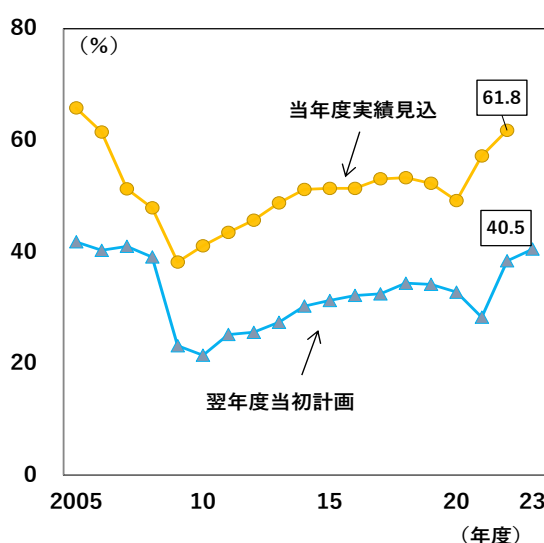
21年度実績からの変化幅は、「景気の先行き不透明」や「企業収益の悪化」などの割合が低下傾向にある一方、「必要な人材が確保できない」や「資源高による投資コスト上昇」の比率が上昇している。

5 設備資金調達方法…「金融機関借入」割合が減少

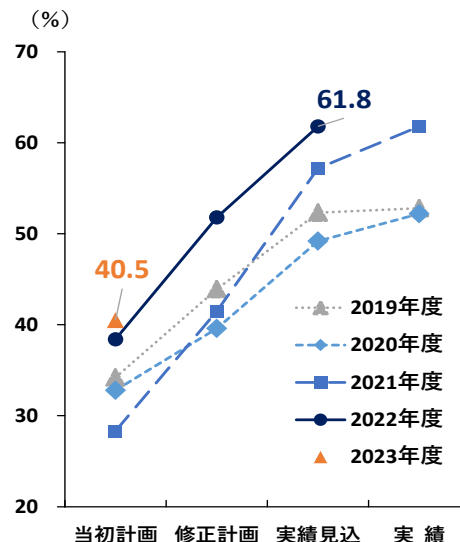
1社当たり設備資金調達構成比を単純平均した結果をみると、22実績見込の全企業平均の「金融機関借入」は32.7%。23当初計画は「金融機関借入」が37.7%と、いずれも前年同期比で「金融機関借入」の構成比が低下。

<設備投資「有」とした企業の割合の推移>

《前年度実績と当年度修正計画推移》



《当初計画→修正計画→実績見込→実績時点比較》



▼詳細は別添をご覧ください。

→ [「中小企業設備投資動向調査（2023年1月）」](#)